

予約制 は事前予約が必要です。
予約可 は予約なしでも受診可能です。 ※第2・第4土曜日は休診です。

	診察開始～受付終了	専門外来等	月	火	水	木	金	土
健診	市・被爆者・協会けんぽ等 各種健診、人間ドック他 ㊟乳がん健診	午前	桑原 中増	桑原 ㊟川口	廣川・中増 ㊟木村(ま)	桑原・廣川 ㊟川口	桑原 中増	1・3・5週 古江・中増 ㊟1週 木村(ま)
		午後	中増	㊟川口	古江・中増	桑原 ㊟川口	中増	
禁煙支援外来	9:00～11:30			木山				
	17:00～18:30					2・4週 木山		
内科 (当院に初めて 受診される方は 予約制では ありません)	9:00～11:30	総合診療内科	山田・廣川 正木・高橋	吉國・橋本 山田	山田・正木 中村(晴)・田上	藤原・久保田 吉國・舟木(洋)	山田・藤原 橋本・立本 村田	1・3・5週 ㊟川・鷹屋・山田・正木
		循環器内科	鷹屋・伊藤		鷹屋・村田			
		呼吸器内科		濱田				
		消化器内科		加太・西原		西原	ウオン	1・3・5週 ウオン 中村(晴)・久保田
		糖尿病内科	森下		森下		森下	1・3・5週 森下
	14:00～16:30			大谷・木山		鷹屋		
				大谷		秦		
		リウマチ科			舟木(将)			
		循環器内科				鷹屋		
		呼吸器内科				2・4週 木山		
緩和ケア内科	9:00～11:30		本家	舟木(洋)	本家	本家	加太	
	13:30～16:30					田上	田上	
脳神経内科	9:00～11:30/14:00～16:30		祢津					
精神科	9:00～11:30					山本		
リハビリテーション科	9:00～11:30	〇理学・作業・言語・ 物理の各療法	〇	〇	〇	井口 〇	〇	1・3・5週 〇
	13:30～16:30		〇	〇	〇	〇	〇	
外科	9:00～11:30		大田垣 郷田	長嶺	郷田	大田垣	長嶺 郷田	1週 長嶺・郷田 3週 大田垣 5週 交替
	15:00～16:30							
乳腺外科	14:00～16:30						舩本	
心臓血管外科	14:00～16:30					片山/高崎 交替		
脳外科	14:00～16:30						岡崎	
整形外科	9:00～11:30		市川・土井 濱西	田中 森	森 國崎	市川・田中 濱西	田中 土井	1週 土井・濱西(市川) 3週 田中・森 5週 市川・濱西
	16:00～18:30					森 古田		
小児科	9:00～11:30	㊟小児一般 ㊟予防接種 ㊟乳児健診	㊟友田	㊟森下	㊟友田	㊟森下	㊟友田	㊟1・3・5週 ㊟吉國
	14:00～15:00		14:00～14:30 ㊟森下		㊟14:00～16:30 1・3・5週 ㊟森下	㊟14:00～14:30 ㊟友田	㊟1・3・5週 ㊟森下 ㊟14:45 ㊟2・4週 ㊟森下	
	15:00～16:30		15:00～16:30 ㊟森下					
	17:00～18:00							
	12:30～17:00		カウニング	太田・芳西		太田・芳西	太田・芳西	
眼科	9:00～11:30		高本	三笠		小松		
泌尿器科	9:00～11:30	月・木は10:00～	広島大学		山崎	広島大学	山崎	1・3・5週 広島大学
	14:00～16:30		広島大学		山崎	広島大学		↑午前も休診の場合あり
耳鼻いんこう科	9:00～11:30		大橋	大橋	大橋	大橋	大橋	1・3・5週 大橋
	15:00～16:30		大橋			大橋	大橋	↑午前も休診の場合あり
皮膚科	9:00～11:30		松尾		水野		渡邊/森岡 交替	
	14:00～15:00							
婦人科	9:00～11:30	初診(再診)	三田尾	三田尾	三田尾	三田尾	三田尾	1・3・5週 三田尾
	14:00～16:00	子宮がん検診	三田尾	三田尾		三田尾		↑午前も休診の場合あり

地域連携だより

夏が終わり、少しずつ肌寒さを感じる今日この頃ですが、地域のみなさまにおかれましては、大変お世話になっております。

これから冬にかけて、いまだ経験したことのない、目に見えないウイルスへの対応に追われることが懸念されます。今後とも、地域のみなさまと共に連携をはかり、努力してまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携センター 地域連携部
直通ダイヤル ☎ 082-879-1203



広島医療生活協同組合

広島共立病院
HIROSHIMA KYORITSU HOSPITAL

https://www.hiroshimairyo.or.jp
〒731-0121 広島市安佐南区中須2丁目20-20
TEL 082-879-1111(代)
FAX 082-879-6964
E-mail kyoritsu@hiroshimairyo.or.jp



広島共立病院と地域医療機関を結ぶコミュニケーションペーパー

NET WORK

広島共立病院広報誌 ネットワーク 2020

vol. 57
10月号



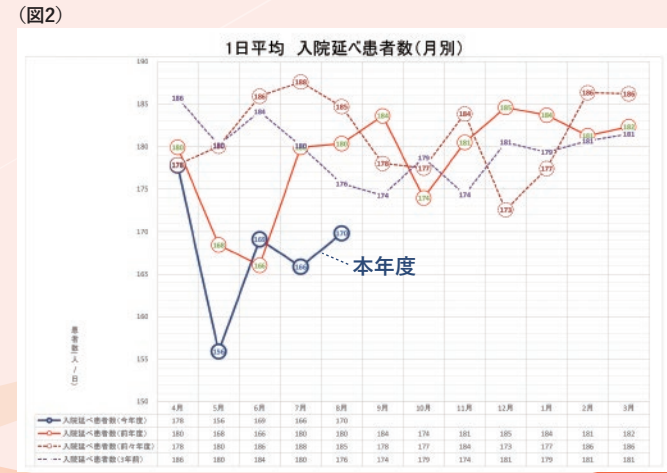
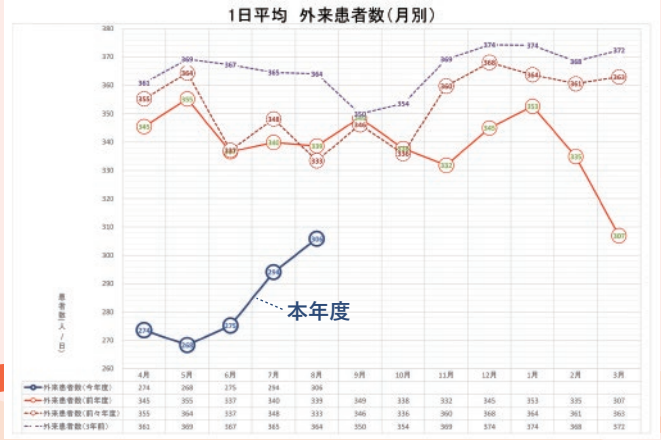
新型コロナによる患者減

むらた ひろひこ
広島共立病院 院長 村田 裕彦

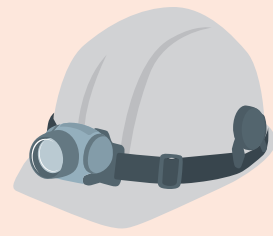
広島市内の新型コロナウイルス感染症流行第2波は終息傾向ですが、Withコロナは長期戦です。コロナ禍では人と人とのコミュニケーションを断たれます。当院でも3月の地域医療連携交流会の中止を皮切りに、オープンカンファレンスなど各種行事を中止しており、近隣の先生方と直接お会いできておりません。そろそろ再開しないといけませんので、オープンカンファレンスはWeb配信も取り入れて再開を検討しております。また、情報提供も回数を増やしたいと思います。本「Network」誌はこれまで季刊でしたが、今月から隔月刊にして偶数月にお届けいたします。一般向けの情報誌「きょうりつだより」は奇数月ですので、情報誌が毎月お届けできるかと思います。お時間のある時に目を通していただくと幸いです。

当院では7月31日からSARS-Cov-2迅速抗原検査を開始し、次いで9月1日から広島県の施策による唾液によるPCR検査を開始し、幅広い適応と早期診断ができるようになりました。さらに9月23日からは、院内にてPCR検査を開始しております。今回導入した機械は、「全自動遺伝子解析装置Smart Gene」という小型の機械ですので多数の検体は処理できませんが、より迅速な対応が可能になりました。ご紹介の患者さんにも適用させていただきます。

新型コロナの流行は様々な業界に影響を及ぼしていますが、



広島共立病院の災害対策



DMAT活動状況

循環器内科医長 **伊藤 尚志** 医師



2014年8月20日の広島市豪雨土砂災害から6年が経過しました。当時旧病院であった当院も被災し、災害に備えるという意識をより強く持つ必要がありました。

1995年の阪神淡路大震災を受けて、「各都道府県内や近県において災害が発生し、通常の医療体制では被災者に対する適切な医療を確保することが困難な状況となった場合に、都道府県知事の要請により傷病者の受け入れや医療救護班の派遣等を行う病院」として「災害拠点病院」が厚生労働省により設置されました。2019年に広島共立病院が災害拠点病院の指定を受けるにあたり、災害派遣医療チーム「DMAT (Disaster Medical Assistance Team)」を持つことになりました。現在当院は医師2名、看護師3名、業務調整員3名の合計8名のDMAT隊員を保有しております。

災害対策の一環として、2020年2月25日、当院はNGO団体ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)と災害時および平時の連携等に関する協定書を締結しました。



PWJは国内外の自然災害や紛争の被害者に対する支援などを行っている団体です。PWJが所有しているドクターヘリに搭乗させていただき迅速に被災地の支援に向かうなど、より実行力のある災害支援を行っていくことを目的としております。現在当院は新型コロナウイルス感染症対策として病院の出入口を正面玄関のみに限定し、来院者全員に検温を行って

おります。この正面玄関にPWJから提供していただいた TENT を張ることで、天候に左右されず感染対策を行うことができております。



DMATを結成して1年半あまりが経過しましたが、まだ災害現場への出動経験はありません。「いつ起こるか分からない、しかしいつか必ず起こる」大規模災害に備えるため、定期的な訓練を行っています。2019年には安佐地区、広島県、中国地方それぞれにおいて災害実動訓練に参加しております。いずれも実際の災害や対応中のトラブルまで想定された密度の濃い訓練で、他の医療機関のDMAT隊員とも連携を取りつつ訓練を受けてまいりました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大規模訓練の開催は困難が予想されますが、日常診療の中でも常に実災害が発災することを想定しながら業務を行い、被害を最小限に食い止める努力を続けて参ります。



広島共立病院 診療科紹介



かぶと しゅう
加太 周 医師

緩和ケア内科

平成26年9月広島共立病院の新病院への移転とともににはじまった当院緩和ケア病棟も、おかげさまで開設から7年目を迎えることとなりました。この間、地域の先生方より多くのがん患者さんをご紹介いただき、また双方向の連携において、各医療機関職員の方々の多大なるご支援とご協力をいただきましたことに、心より感謝を申し上げます。

緩和ケアとは何かを説明する際に、従来のWHOの定義に基づいた説明よりもわかりやすい統一した表現として「緩和ケアとは、重い病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるよう支えていくケア」という言葉を用いることが、近年日本緩和医療学会により推奨されております。またWHOは最近その声明のなかで緩和ケアの今後の方向性について、「プライマリーケアとの統合」ということを謳うまになりました。緩和ケア全体としては、がんに限らず、また人生の終末期に限らず、療養の場所を問わず、必要な人に広くもれなくいきとどくことを目指して、その対象領域をさらに拡大していく方向に進んでいくものと思われます。

ここ数年、がん患者さんに対する緩和ケアの普及は目覚ましく、さまざまな施設あるいは場所で緩和ケアが行われておりますが、そのなかにおいて、当院は緩和ケア病棟を有する安佐地域で唯一の病院でもあり、「緩和ケア病棟における緩和ケア」の実践が地域における当科の最大の役割・特徴・位置づけになるかと思っております。以下に、当院緩和ケア内科の概要と現状について紹介させていただきます。

現在、当院緩和ケア内科は常勤医師2名・非常勤医師2名あわせて4名の医師体制で外来・病棟の診療にあたっております。

外来では主として当院緩和ケア病棟への入院相談をお受けしております。緩和ケア病棟への入院相談窓口は地域連携部となっており、現在のところがん患者さんのみが対象です。患者さんご自身の来院が困難な場合には、ご家族のみご来院いただいての入院相談

もお受けできます。外来での面談では、患者さんの病状やおかれている状況や心配されていること困っていること、入院時期の希望などについて時間をかけてお聞きします。また、病棟施設の見学もしていただき、緩和ケア病棟の運営方針や運用状況についても詳しく説明させていただきます。療養場所の選択肢の一つとして緩和ケア病棟の存在を知っていただくとともに、「話を聞いてくれてありがとう」「不安な気持ちが少し軽くなった」と言っていただけることを目標としています。

緩和ケア病棟では、疼痛をはじめ身体症状の緩和はもちろんのこと、精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルペインも含めた全人的苦痛total painの緩和という視点から、薬物療法だけにとどまらない、緩和ケア病棟ならではの「患者さんとその家族を支える取り組み」をスタッフとともに実践しています。多職種カンファレンスをはじめとする各種カンファレンスを通じてスタッフ間で情報を共有し、患者さんやその家族がかかえる問題を抽出し、その解決策に向けて知恵を出し合います。ときには「正解のない問題」にもぶつかりますが、患者さんやそのご家族とともに悩み、スタッフ間で可能な限り多くの意見を出し合い、何らかの対応策を導き出すよう努めます。緩和ケア病棟におけるより良い緩和ケアの提供を目指し、スタッフとともども日々奮闘しております。

最後に、当科外来へご紹介いただく時期に関してですが、直近の入院相談のみならず、「緩和ケア病棟について知りたい」「今後の選択肢の一つとしたい」など、患者さん側に少しでもご要望がございましたら、その時点でお気軽に当科を受診していただけたらと思います。将来入院をご希望されている患者さんやそのご家族にとって少しでも早い時期からお力になればと思っています。

以上、簡単ではありますが、当科の概要と現状についてお話させていただきました。地域の先生方ならびに医療施設職員の方々におきましては、引き続きご支援とご協力をいただきたく、今後ともよろしく願い申し上げます。